

▼今回のランナー



片倉健智

かたくらたけとも●岩手県出身。2010年農学部生物環境学科卒業。東日本大震災直後に宮城県庁入庁。4月から数ヶ月間は避難所勤務も。現在、震災復興・企画部被災地の復旧復興に尽力している。

Yamadai SEIKA Relay



山大聖火リレー

集中の成果

東日本大震災から丸5年、復旧復興に向けてがんばる被災地にも卒業生の姿があった。農学部生物環境学科(当時)で河川環境学を専攻していた片倉健智さんは、震災直後に入庁した宮城県職員。現在は、人事交流で本来の配属先を離れて、震災復興・企画部地域復興支援課土地対策班の技師として、市町村が行う土地境界の確認調査及び測量成果の検査・認証業務等を担当している。河川の生態系への興味から農学部に進学した片倉さんが県庁職員を目指すきっかけになったのは、県庁職員になった先輩の「特定の仕事だけでなく、専門分野に関係するさまざまな仕事で地域に貢献できる」という話に魅力を感じたことと、地域の子どもを対象として水田の多面的機能や生き物の紹介をするイベント「田んぼの学校」に携わりたいとの思いからだった。本来の職場である農林水産部では、実際に「田んぼの学校」の講師役を務めるなど、大学で学んだ専門知識がそのまま生かされたことに加え、測量に関する知識等は現在の職場でも基礎として役立っているという。

大学時代には、卒論の調査のために原付と自転車で演習林に毎日通い続けた約2か月間や、環境保全サポーターとして参加した地域の活動、おいしい賄い料理と接客体験が魅力だったアルバイトなど、たくさんのいい出会いに恵まれた。特に卒論研究でも、自主性を尊重しつつも要所で熱心に指導して下さった担当教授には今でも深く感謝している。「楽しい思い出や悩み苦労した経験すべてが社会に出てからの活力になっている。大学の4年間は間違いなく人生の宝となるので、仲間と共にたくさん悩み、興味のあることには一生懸命挑戦してほしい」と実感を込めてエールを送ってくれた。



現在の仕事はデスクワーク中心だが、検査の際には測量の現地確認等も行う。現地で市役所職員から説明を受ける片倉さん。

4年間で得た専門知識や気力、体力、仲間は宝、それらを糧に地域の復興業務に全力で取り組む。

片倉健智 宮城県震災復興・企画部地域復興支援課土地対策班 技師



田んぼの生態学的役割の話も交えながら、捕獲した生き物の解説をする片倉さん。大学で学んだ専門分野を仕事に生かしている。

自分の可能性を
広げる場

片倉健智

片倉さんにとっての
山形大学とは？